

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①総会

・令和3年5月24日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：10名（うち評決委託者4名）／正会員数10名

<報告事項>

第8期事業報告・第9期事業計画について

<決議事項>

第8期収支決算について

②理事会

・令和3年12月19日

出席者数: 4名

<提案事項>

定款変更決議の為臨時社員総会の招集

開催日:令和3年12月27日

開催場所:三日市ラボおよびオンライン会議システム

③臨時総会

・令和3年12月27日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：10名／正会員数10名

<決議事項>

定款変更について

2 事業の概要および成果 別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 実施場所 | 事業実施の期間 (契約期間) | 従事者数 | 受益 対象者数 | 事業費 (単位：円) |
|------------------------|----------|-------------------|------|------------|---|
| 課題解決型 人材育成・ 確保事業 | 雲南 市内 | H30.4.6~H31.3.31 | 4名 | 60名 | 経常収益 16,026,657 経常費用 ▲15,449,924 収支合計 <u>576,733</u> |

以上のほか、次の事業を実施した。

| | 研修事業 |
|-----------------|----------------|
| 経常収益 | 253,980 |
| 経常費用 (人件費除く) | ▲61,904 |
| 収支合計 | 192,076 |

②その他事業

| | 業務代行事業 |
|-----------------|----------------|
| 経常収益 | 337,800 |
| 経常費用 (人件費除く) | ▲25,190 |
| 収支合計 | 312,610 |

NPO法人おっちラボ 第9期事業報告

2022.5.25 定時総会
文責：代表理事 小俣健三郎



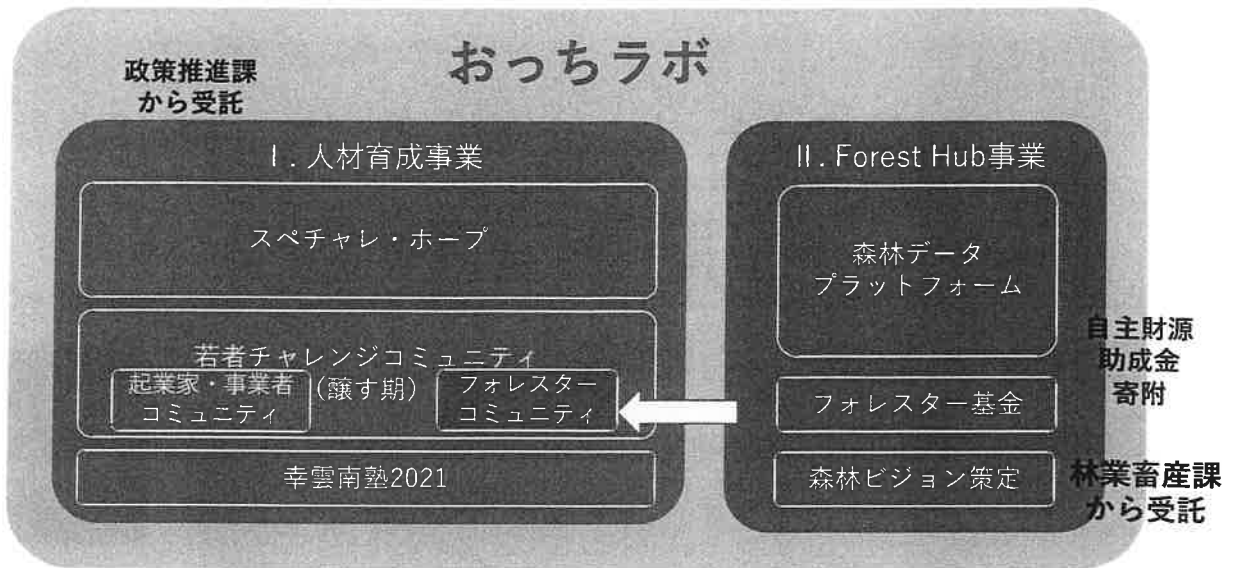
おっちラボの組織使命（役割定義）



「人の可能性を解き放つまちをつくること」

- 背景：おっちラボは創業以来、仕組みづくりではなく「人の可能性」を信じ、老若男女あらゆる人の力が発揮される土壌を作ることで、雲南地域がのさまざまな課題が解決され持続可能になっていく未来を目指してきた。それは一定の成果をもたらした反面、まだ十分に発揮されていない「可能性」が見えてきている。雲南における支援制度には、このように人にフォーカスをするものではなく、依然としておっちラボが「人の可能性」にこだわり続ける必要がある。そこで、創業以来の精神を引き継ぎつつ、人の可能性を「解き放つ」ことにこだわっていく。
- そこで、われわれは、雲南にご縁のある人たち（居住、活動、出身etc.。起業家に限らず、行政職員や生活者も含む）が、まちに対して希望を持ち、それに向けて何らかの行動をしていると自覚・実感し、その目指すものの活動成果につながっていることを「解き放たれた」状態と定義し、これを達成する事業を実施することとする。

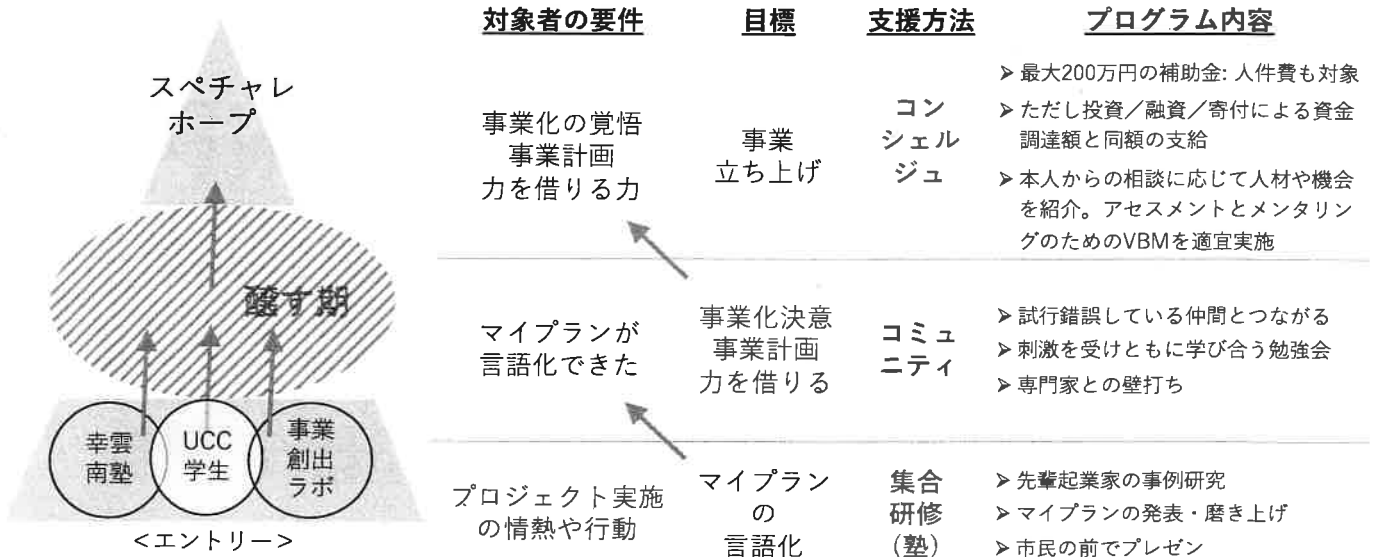
第9期事業計画概要



I. 若者チャレンジ人材育成：基本設計



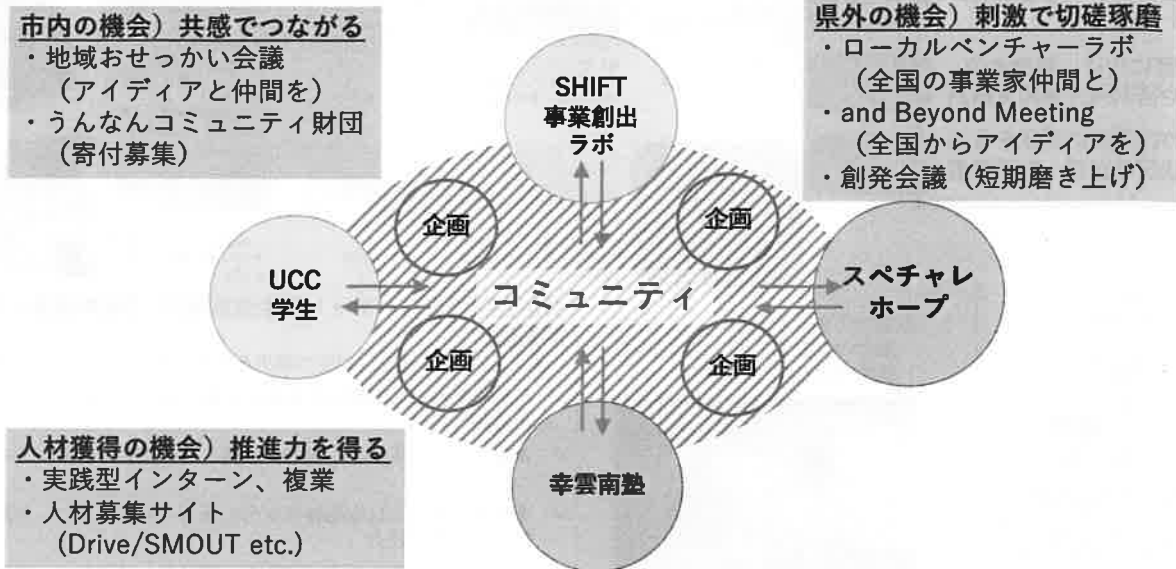
起業家精神（「やってみよう」「なんとかなる」「ありがとう」「わたしらしく」）を体現し、自治を進化させる市民を育成する。



1. 若者チャレンジ人材育成：基本設計



スペシャレ採択者や経験者も、必要に応じてこれらの機会に参加するよう促すことで、醸す期コミュニティ内の学び合いの質を高めていく。



1. 人材育成事業報告要旨

参考：令和3年度課題解決型人材育成事業 実施報告書



| 事業名 | 成果 |
|----------------|--|
| スペシャルチャレンジ・ホープ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 申請前の事前相談を18組に実施。最終的な申請者は4名、共創会議での審査により2名を採択 ✓ 採択者は「農作物の加工販売」「時代に合わせた自動車産業のシフト」という地域課題を解決しうる事業拡大 ✓ 不採択であった2名についても、継続的に面談し、新規事業を立ち上げ |
| 事業創出コミュニティ組成支援 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニティ組成の試行「UNNANメイカーズサロン」5回実施 ✓ 新規事業検討中の事業者を中心とした先進地視察（西粟倉村）1回実施 ✓ 里山クリエイター基金から5団体に助成 |
| 幸雲南塾2021 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2シリーズ（各3回）を実施し夏季3組・冬季8組（延11組）参加 ✓ 5名以上の塾生同士でコラボレーション企画が生まれ、お互いにお互いのプランを協力し合い進める仲間づくり |
| ローカルベンチャー協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ ローカルベンチャーラボへの接続2名 ✓ 森あそび研究プロジェクトにおいて地域外人材との接続 ✓ 日本郵政のローカル共創イニシアティブにおいて雲南市に2名の出向決定 |

スペチャレホープ実績 (参考：実施報告書10-14頁, 25-26頁)



スペチャレ申請者一覧 (R3年度)

このほか事前相談を14組に実施

2021年度の達成目標

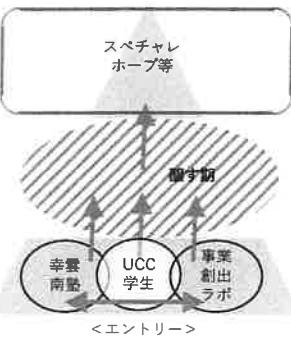
- 広報強化により応募10件、採択3~5件
- R4年度に向け、補助金の増額や補助条件緩和を検討
- 過去の採択者の現状を含め、活動状況の記事・動画掲載

応募4件
採択2件

下記の
制度改革

動画○
記事未達

| 申請書(敬称略) | 採択内容 | 採択の可否 | 着速度 |
|---------------------------|--|-------|---|
| 山田健太郎/ 雲南産スパイス加工品製造・販売 | スパイス作物を雲南で栽培し、雲南市内で加工する事業を新たに開始したい | 採択 | 10月加工製造施設を建設。2021年度収穫したスパイス作物で試験稼働。 |
| 杉原雅也/ 軽トラレンタルサービス事業 | 軽トラのレンタルサービスとともに、新たなアクティビティを伴う軽トラ利用を促進し、雲南の暮らしを豊かにする。 | 採択 | 軽トラを改良し、移動式キャンピングカーとしてサービス展開予定(4月~) また自主組織を顧客として軽トラレンタルサービスをスタート。 |
| | 雲南でオーガニック農作物を作っている農家と連携し、オーガニックの作物のみを使ったお菓子製造し、その魅力を伝える店舗を経営したい。 | 不採択 | 不採択であったものの、12月に実店舗をオープン。雲南市内のオーガニック農家とも繋がりを作っている。 |
| | 廃棄野菜を廃棄するのではなく、農家の収入になるよう加工し商品開発を行う。 | 不採択 | 不採択であったものの、雲南市木次町葛村に新たに夕食付の貸し宿をオープン |



22歳以下の動画編集コンテスト
過去の採択者のインタビュー
優秀作品を制作・公開



共創会議でのスペチャレ制度改革検討 (3回の協議と個別説明実施)

概ね以下の内容で、制度の運用を改善することについて合意した。

- ✓ 市民を笑顔にし雲南市の発展に貢献するソーシャル「ビジネス」の支援を目的
- ✓ 審査会までの準備の段階で、委員から申請者に助言できる機会をつくること
- ✓ 事業性に関しては金融機関を含む部会で審査をして、共創会議は社会性審査に注力
- ✓ 採択後においても委員が定期的に採択者と対話をする機会

事業創出コミュニティ実績 (参考：実施報告書14~23頁)



2021年度の達成目標

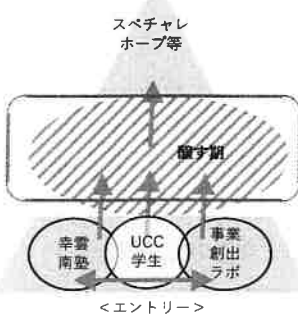
- 事業化に向けた学習後押しのポイントが明確になる
- コミュニティを運営できる市民チーム(非おっちゃんラボ)の骨格が見える
- 参加者の3組程度が次期のスペチャレ・ホープへ
- 参加者の5組程度が次期のローカルベンチャーラボへ

傾聴<会話量
具体テーマを軸

未達

3組

0組



| プロジェクト | 内容 | 参加者 |
|------------------|--|--------|
| うなんんメイカース サロン | 起業家や事業者の想いを語り下ろすことで相互理解と連携のきっかけづくり (5回) | 7名参加 |
| 里山クリエイター 基金 | うなんんコミュニティ財団に基金を設置し、里山空間を身近にする取り組みに助成。集合研修も実施。森林スポーツ、学校林活用、養蜂、道開きなどを支援 | 5組に助成 |
| テーマ別勉強会 | コーチングやダイアログの方法論 (3回) プログラミング教育事業の先進事例検討会 | 計10名参加 |
| 西粟倉村視察 | 林業を軸とするローカルベンチャーおよび支援組織の視察 | 15名参加 |

幸雲南塾2021実績 (参考：実施報告書4~10頁)



2021年度の達成目標

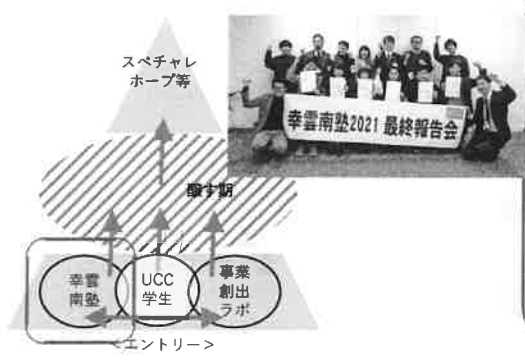
- 受講者6~10組 (→ 醸す期コミュニティ・LVラボへ)
- 地域おせっかい会議・コミュニティ財団との連携確立

10組

報告会の共催

夏の陣最終報告会 (10月16日) 参加者30名

- ・青木隆さん『雲南の資源を集めたECサイトづくり』
- ・佐々木久美さん『うんなんの食と健康のコミュニティあそびばキッチン』
- ・小林雅和さん『ちょこぼうさいと〇〇ぼうさい』



冬の陣最終報告会 (1月22日) 参加者40名+配信

- ・佐々木久美さん『雲南でつながる・広がる「あそびばキッチン」』
- ・古賀亮晴さん『ソフトから防災を支えるビジネスづくり』
- ・岸本寛子さん『ドラゴンメイズ10万人プロジェクト』
- ・吾郷希穂さん『ご当地エネルギーの地下作り』
- ・長谷川直人さん『こどもたちの「今日、何する?」を作るプロジェクト』
- ・糸賀太郎さん『うなぎで起こすローカルイノベーション』
- ・梅澤宏徳さん『みんなで作るCAFE』

ローカルベンチャー協議会実績

(実施報告書23~24頁、18~21頁)



森あそびラボ：2022年度以降のモデルづくりの基盤となるネットワーク形成とビジョン共有

① 森あそびビヨンドミーティング

- 目的：全国のアレイヤーの交流
- 実績：2021年度は計11回(全2回実地)のオフラインミーティングを実施(山形県内)
- 実施する中で見えてきたこと：
 - ・オンラインで開催したこともあり、全国から参加者が集まりました。
 - ・結果、大企業からスタートアップ、行政職員、学生など多様な参加者が集った。
 - ・「応答する文化」をもうひとつ、その文化が社会とつながるきっかけになるため、「今年一緒に**作ろう」という共通目標の関わりが深まりました。
 - ・参加者から企画は自分たちがオンラインで進めていくという声も聞かれました。

② 50年後の森検討会

日程とテーマ

第1回 12月9日(火) 午後19時~20時30分
 テーマ：マウンテンバイク、トレイル整備と森林管理
 講師：トレイルカッター代表 名取 智哉

第2回 1月13日(木) 午後19時~20時30分
 テーマ：木の多様な活用可能性
 講師：日本アレスターLLC代表 小森 雄樹氏

第3回 2月10日(木) 午後19時~20時30分
 テーマ：森林環境遊歩道の活用
 講師：日本アレスターLLC代表 小森 雄樹氏

第4回 3月9日(水) 午後19時~20時30分
 テーマ：自然遊歩道ゾーンの誘致と成長
 講師：株式会社若谷リゾート 代表取締役社長

参加対象：山林所有者、行政職員
 参加者数：約64名

目的：森林空間利用の先進事例を知ることで、森林生産者から森林活用後の検討等、森林環境遊歩道を活用するための新たな投資を得る。

実施する中で見えてきたこと：

- ・森林化ガスの収益を世界にコミットしている日本企業として、森林環境遊歩道はそれを表現するための役割、使い方は自治体の工夫次第。
- ・マウンテンバイクと木の管理が関連している側面がある。森を遊べる遊歩道を整備することで、木の管理も進む仕組みが作れる。
- ・木のクオリティや木づくりの全体像を訊いていくことが有効につながる。
- ・参加した講師が次回以降参加者として講師に転身する流れに、各県で実践に向け、各自で講師を招いて現地調査や意見交換、つながった事例もあり。
- ・山形県利用に関心をもつ企業からの参加者も増えた。

ローカルベンチャーラボに2名接続 日本郵政より2名の出向を獲得

中澤太輔さん
平井佑佳さん

岡田江梨花さん：CNCにてナスくる事業立ち上げ
三輪信介さん：当法人にて地域資産(山・空き家・金融資産等)の循環の仕組みづくり



その他の実績

生態系づくりおよび案件発掘

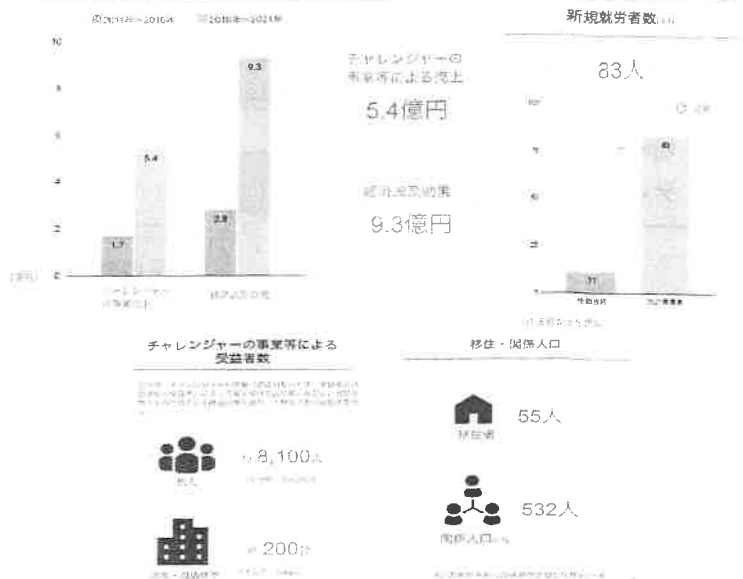
(1) チャレンジ創生PT会議等ソーシャルチャレンジを加速する取り組みへの継続関与

- PT会議出席
- チャレンジ生態系を支える資金調達の仕事みである公益財団法人うんなんコミュニティ財団の伴走支援を実施（休眠預金等活用事業や資金調達への助言等）

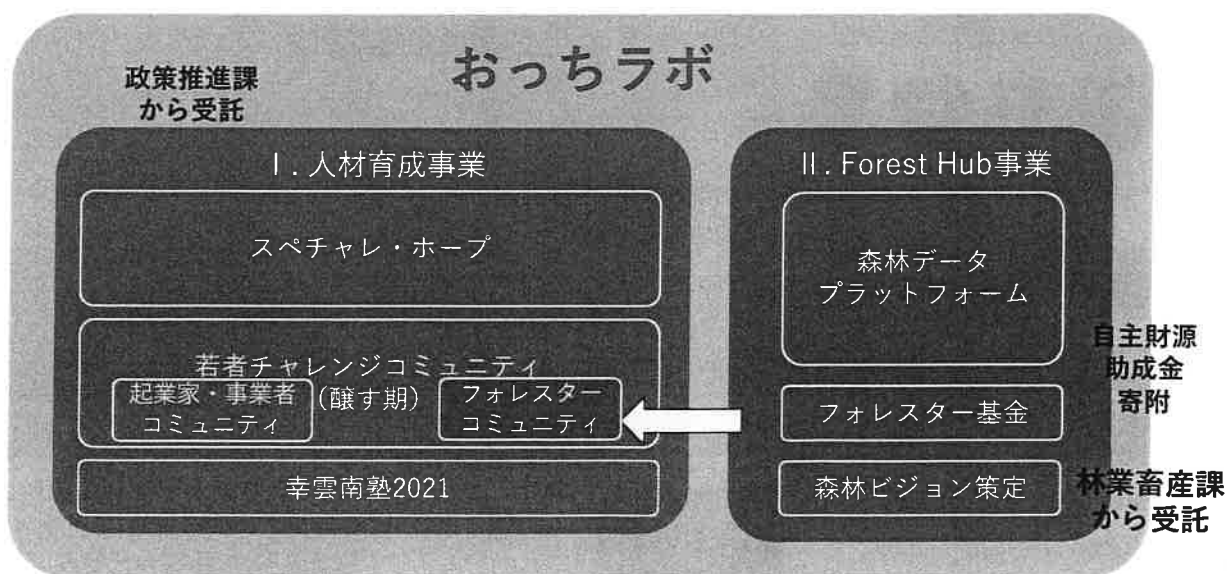
(2) その他地域課題解決にかかる案件組成や資金調達協議

- 助成金申請のサポートなどをした団体・事業
- 実践型インターン事業
 - 地域交通事業
 - 地域ぐるみの子育て支援事業
 - 地域の八百屋の承継に関する事業
 - 精神障害者の居場所づくりの事業
 - ドローンを活用した移動販売/物流の事業
 - 綿花栽培と衣料品製造販売の事業
 - オーガニックタウン構想 等

幸雲南塾/スペチャレ・ホープのインパクトレポート



第9期事業計画概要 (再掲)



II. Forest Hub事業報告要旨



| 事業名 | 成果 |
|---------------|---|
| 森林データプラットフォーム | <ul style="list-style-type: none"> ✓ PwCコンサルティングよりプロボノ支援を受け（～9月）、データプラットフォームのビジネスモデルを検討。7月に市民とのワークショップ開催 ✓ 事業再構築補助金約400万円の採択を受け、データプラットフォーム構築のためのチームを結成（技術支援、構築担当者、市場調査などの役割） ✓ 補助期間終了後のビジネス展開に向けて専門家と戦略会議を開催 |
| 里山クリエイター基金 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 当法人より100万円を拠出し、うんなんコミュニティ財団に「たたらの里山クリエイター基金」を設置し、募集・選考を実施。 ✓ 1の人材育成において活動をサポート |
| 林業振興ビジョン策定 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 林業畜産課との協議により受託しないことを決定。 ✓ 当法人において既存の林業関係者と合意形成しながら仕組みを作るリソースが不足しているため、2021年度は民間主導での小さなモデルづくりに注力し、次年度以降このモデルの意義を林業振興ビジョンの中に位置づけてもらうことを目指した。 ✓ 2022年度、データプラットフォームおよび山林活用人材育成において林業畜産課との連携について協議を開始した。 |

データプラットフォーム事業実績

参考：雲南フォレストハブ概要

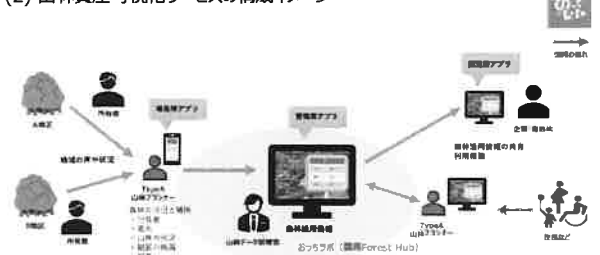


実証実験のテーマと方向性の明確化 / 実施体制の構築

(1) 特定規定材のマッチングサービスの構成イメージ



(2) 山林資産可視化サービスの構成イメージ



(3) 住民生活課題解決サービスの構成イメージ



<プロジェクト実施体制>

- ESRIジャパン（ArcGIS技術支援）
- 長谷川直人さん（アプリ制作、木材流通調査）
- 船木海さん（山林資産調査）
- 飯石自主組織/金築さん、黒谷さん（獣害調査）
- 地域ICT研究所 榊原貴倫さん（事業構築戦略）